

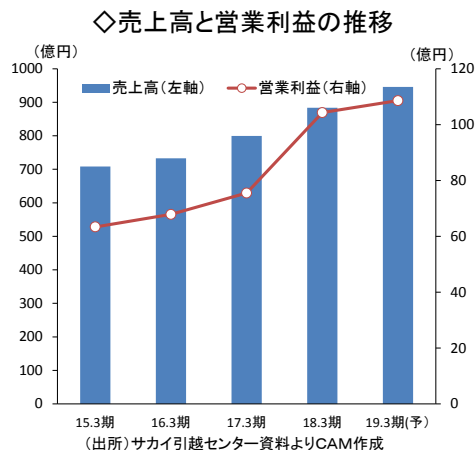
企業ニュース サカイ引越センター

(東証1部：9039) <http://www.hikkoshi-sakai.co.jp/>

作成者：荒木晶子

需給ひっ迫による作業単価の上昇が見込まれる

1971年創業の引越業者。全国157拠点、191支社を展開している（2018年9月末時点）。従前からの新入社員の採用・育成が奏功し、他社が人手不足で受注を抑制する中でも着実にシェアを獲得している。引き続きドライバーの育成やパート・アルバイトの採用強化に注力し、拠点を拡大することで作業効率の向上を図る。また、法人の大型案件獲得にも力を入れており、高採算な案件も増えている模様だ。2018年、競合の1社が引越しの新規受注を停止した。これにより、当社にも顧客が流入したとみられる。また、需給がひっ迫することで作業単価の上昇が見込まれる。これらを背景に、当社の収益が拡大し、通期計画達成の確度が高まっている。



作業効率の低下を単価でカバー

19.3期・第2四半期累計（4-9月）の連結業績は、売上高が466億円、前年同期比6%増、営業利益が63億円、同3%減。計画に対して売上高は4億円の未達だが、営業利益は5億円上回った。作業件数は375,055件、前年同期比0.5%増。長距離輸送の増加が、作業効率を低下させたと思われる。一方、作業単価は109,545円、同2.7%増。引越し業界全体の競争の緩和で値引きが減少したことや、法人顧客を中心とした高採算案件の増加が寄与した。

19.3期の通期会社計画は、売上高が946億円、前期比7%増、営業利益が109億円、同4%増。通期計画は据え置いたが、営業利益が上期計画を上回ったことや、速報ベースの第3四半期（10-12月）売上高が前年同期比7%増と堅調であることを踏まえると、上振れが期待できよう。作業件数は765,000件、同3.6%増を見込み、ほぼ計画線で推移している。作業単価は109,036円、同0.4%増の計画だが、需給ひっ迫や高採算案件の増加で、計画を上振れる可能性が高い。

【株価動向・投資判断】

株価は高値圏での推移が続いている。シェア拡大や需給ひっ迫による作業単価の上昇でさらなる収益成長が見込まれ、株価も上値余地があろう。

<9039 サカイ引越 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	79,963 (9)	7,552 (11)	7,968 (12)	4,535 (5)	215.1	40.00
18.3	88,386 (11)	10,431 (38)	10,687 (34)	7,116 (57)	340.5	50.00
19.3 予	94,580 (7)	10,861 (4)	11,116 (4)	7,074 (▲1)	344.5	50.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2019/1/11)	5,960 円
昨年来高値(高値日)	6,640 円(18/9/25)
同 安値(安値日)	4,680 円(18/2/14)
予想 P E R (19.3 予)	17.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,803.8 円
P B R	2.13 倍
予想配当利回り	0.84 %
(1株当たり配当金50.00円)	
R O E (18.3)	14.1 %
発行済み株式数	2,116 万株